



竹島

タケシマヤツシロラン

神戸大学の末次健司准教授は、二〇二二年四月に竹島で新しいラン科の植物を発見した。ハルザキヤツシロラン^②から進化したと考えられるその植物は「タケシマヤツシロラン」と名付けられた。

その植物の生態は、馴染みある植物の生態とはかなり違い、まず光合成をしない。生育場所は、暗い竹林^①の林床で、栄養は菌類に寄生して一方的に搾取する。そして、なぜか咲かない花をつける。この花は自家受粉して結実する「閉鎖花」という花で、スミレの仲間でも閉鎖花^③（緑の蕾をつけるもの）が多い。ただし閉鎖花をつけるのは「送粉者がいない」「栄養源が乏しい」環境になったときで、タケシマヤツシロランのように閉鎖花しかつけない植物は極めて珍しい。

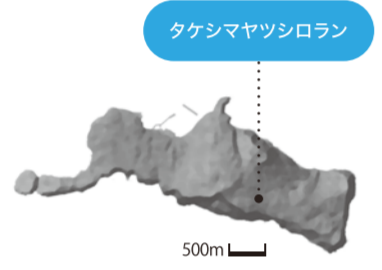
光合成をしない植物は、光の届かない場所を生活圏にできるが、そこには花粉を運ぶ昆虫、つまり繁殖を助ける役が少ない欠点がある。タケシマヤツシロランは、確実な繁殖のために自家受粉を選び、花を咲かせることもやめたと推測されている。

他の生物との共生関係まで絶つてしまうタケシマヤツシロランの大胆な進化は、生命の存続の方が環境に強く依存することを教えてくれる。種の存続のために、環境は重要な要素である。

思い出話

「たまにタケシマヤツシロランを見に来る人がいて、先生に特徴を教わったので案内します。実物を見て喜ぶお客さんを見ると自分も嬉しくなります。」

竹島地区 三〇代 男性



5

日	月	火	水	木	金	土
1 旧 4/1 ● 新月	2 旧 4/2	3 旧 4/3 憲法記念日	4 旧 4/4 みどりの日	5 旧 4/5 こどもの日	6 旧 4/6	7 旧 4/7
8 旧 4/8	9 旧 4/9 ● 上弦	10 旧 4/10	11 旧 4/11	12 旧 4/12	13 旧 4/13	14 旧 4/14
15 旧 4/15	16 旧 4/16 ○ 満月	17 旧 4/17	18 旧 4/18	19 旧 4/19	20 旧 4/20	21 旧 4/21
22 旧 4/22	23 旧 4/23 ● 下弦	24 旧 4/24	25 旧 4/25	26 旧 4/26	27 旧 4/27	28 旧 4/28
29 旧 4/29	30 旧 5/1 ● 新月	31 旧 5/2	1	2	3	4